

令和8（2026）年度 第1回

草津市読書のまち推進計画審議会

資 料

基本方針	基本方向(★重点項目)		基本施策	事業(参考)
1. 乳幼児から高齢者までの全ての世代に対応した読書活動の推進	★	1)未就学児における読書活動の推進	①家庭における読書の充実 ②子育て支援施設・就学前施設等における読書活動の推進	①・ブックスタート事業の実施・乳幼児健診での啓発・家庭教育サポート事業の実施(未就学児保護者)・(新)絵本の交換会の実施・乳幼児向け事業の実施 ②・子育て支援施設での読書活動の推進・就学前施設での読書活動の推進・(新)読み聞かせスキルアップ講座の実施
	★	2)小中学生および高校生における読書活動の推進	③小中学生および高校生における読書習慣の定着の促進 ④学校図書館の活用の促進	③・授業での図書利用の推進・読書活動の推進・くさつびブリオバトルの開催・草津市図書館を使った調べる学習コンクールの実施・移動図書館の充実(小学校への巡回)・読書ポイント事業の実施・(拡)小中高生向け事業の実施・家庭教育サポート事業の実施(小中学生保護者) ④・(拡)「読書センター」としての学校図書館の機能充実・「学校・情報センター」としての学校図書館の活用・(拡)中学校図書館の利用の促進
		3)成人における読書活動の推進	⑤成人における読書活動の推進	⑤・(新)リカレント教育のための読書活動支援事業の実施・社会人のニーズに応じた読書活動促進事業の実施
		4)高齢者における読書活動の推進	⑥高齢者における読書活動の推進	⑥・(拡)高齢者向け読書講座の実施・高齢者への読書活動支援の実施
2. 市域全体での読書環境の整備		5)就学前施設・学校の読書環境の充実	⑦就学前施設における読書環境の充実 ⑧学校図書館における読書環境の充実	⑦・就学前施設の図書スペースの充実・(新)就学前施設団体貸出用絵本セット「あおばなブック」の配本 ⑧・(拡)学校図書館の蔵書の充実
	★	6)地域における読書環境の充実	⑨地域における読書環境の充実	⑨・(新)図書館のサテライト機能の推進・(拡)移動図書館の充実(市内施設への巡回等)・(新)ブックトレードの実施
	★	7)図書館運営・機能の充実	⑩地域の情報拠点としての図書館機能の強化 ⑪利用者支援サービスの充実	⑩・蔵書・レファレンス機能の充実・(新)デジタル社会に対応した読書環境の整備の検討・学習スペース「学-being」の運営 ⑪・本と出合うイベントの開催・図書館アプリによる図書館の利用促進
		8)読書バリアフリーの推進	⑫読書バリアフリーの推進	⑫・バリアフリー図書の製作・収集および外国資料の収集・多文化共生の視点に立った資料の収集・日常生活用具給付事業
3. つながりによる読書支援の充実	★	9)地域・関係機関等との連携	⑬地域の拠点施設・書店や団体との連携 ⑭関係機関や高等教育機関等との連携	⑬・(拡)市内施設との連携事業の実施・(新)書店との連携事業の実施・市内施設での読み聞かせの実施や本の貸出・地域団体等との連携事業の実施 ⑭・県内図書館・大学との連携事業の実施
	★	10)読書ボランティアの育成・支援	⑮読書ボランティアの育成・支援	⑮・(新)読み聞かせボランティアの養成・育成および活動支援
		11)効果的な情報発信	⑯読書情報等の発信	⑯・読書情報の効果的な発信

全体目標					
指標名		R6実績値	R7目標値	R7実績値	R11目標値
読書が好きな小中学生の割合(%)	小学校高学年	80.7%	80.9%	70.5%	81.7%
	中学生	65.3%	65.5%	55.6%	66.3%
※ 令和7年度の実績値は、全国学力・学習状況調査結果によるもの					

<<目的・趣旨>>

読書習慣の形成は、幼少期における本との多くの出会いや読書環境が大切であることから、幼少期における家庭での読書習慣を推進する。

また、子育て支援施設・就学前施設等において、未就学児が多様な本との出会いを通して本に親しみ、豊かな人間性や感性を育むため、さまざまな本と出会う機会を提供する。

指標名	R 6実績値	R 7目標値	R 7実績値	R 1 1 目標値	～評価と考察～
乳幼児向け読書啓発事業の参加者数	4, 3 5 0 人	4, 5 2 2 人	6, 5 5 9 人 (+2, 0 3 7 人)	4, 8 9 4 人	乳幼児健診での啓発を毎回実施するとともに、新たに絵本の交換会を実施したことにより、R7実績値は、R6実績値とR7目標値のいずれをも上回り、家庭での読書習慣を推進することができた。

(新規) 絵本の交換会の実施

家庭で読まなくなった絵本を他の絵本と交換することで、必要とされる家庭に絵本が循環する場を創出した。

(イベント開催:5回、乳幼児健診:48回)

(新規) 読み聞かせスキルアップ講座の実施

保育者を対象に、読み聞かせスキルの向上を目指した講座を実施した。

(講座開催:年3回、修了生:15人)

実績値の内訳	R 6	R 7
ブックスタート	1 1 1 2	1 0 5 9
乳幼児健診での読書啓発	1 0 9 4	2 2 9 6
家庭教育サポート事業	1 7 3	2 8
絵本の交換会	0	7 0 9
木曜おはなしのじかん	5 5 0	4 5 5
おはなしのじかん	4 3 0	5 1 8
おはなし会	9 5 0	8 2 5
絵本のひろば	1 1	0
図書館への依頼事業	3 0	6 6 9
合計	4 3 5 0	6 5 5 9



【成果】

- ✓各事業での読み聞かせ等により、親子で絵本に触れる機会が増え、家庭での読書のきっかけづくりができた。
- ✓絵本の交換会において、年度をとおして約709人が参加し、約480冊の絵本が交換されたことから、家庭で読まなくなった絵本を他の絵本と交換できる機会を提供することができた。
- ✓読み聞かせスキルアップ講座の実施により、一年度を通して15人の読み聞かせスキルの向上を図ることができた。

令和7年度の課題

- ✓絵本の交換会における参加者数拡大と継続性の確保
- ・絵本の交換会について、交換対象が絵本に限定されていることや開催方法により参加者数にばらつきがあり、新規来場者の拡大とリピーター確保、さらには来場者数が減少する午後の参加促進が必要である。

- ✓ニーズに応じた読み聞かせスキルアップ講座の実施
- ・保育者のニーズに合わせた講座を実施する必要がある。

令和8年度実施計画

- ・絵本の交換会の対象を拡大する。(一般書も交換可とし、絵本の交換会とブックトレードを同時開催する「本の交換会」として実施)
- ・各講座やイベント等における直接的な周知を強化し、新規来場者の拡大につなげる。
- ・プレゼント本の特典制度など、引き続きリピーター施策を実施する。
- ・午後の企画実施→来場時間帯の分散および午後の来場を促進する。
- ・参加者からのアンケートを踏まえ、発表会の内容にかかる助言や個別指導の実施により講座の充実を図る(講座は年3回実施)。

《目的・趣旨》

小中学生および高校生の読書習慣の形成を図るため、図書館と連携した取組みおよび本を活用した教育活動を進める。
また、学校図書館にかかわる大人が児童生徒に本との出会いをサポートするなど、学校図書館の活用の促進を図るため、「読書センター」や「学習・情報センター」の機能を十分に発揮できるよう、活用を促す。

指標名		R 6実績値	R 7目標値	R 7実績値	R 11目標値
一か月に一回も本を読まなかった草津市の小中学生の割合(%)【県調査】	小学校 高学年	6. 4 %	(R 6 県平均値 5. 5 %)	5. 5 % (= 県平均値)	県の前年度平 均値を下回る
	中学生	24. 0 %	(R 6 県平均値 13. 1 %)	17. 2 % (> 県平均値)	県の前年度平 均値を下回る

～評価と考察～

小中学校で、児童生徒に学校図書館の利用を促したことで、R7目標値を上回る(不読率を下げる)ことはできなかったが、R6実績値に対しては大幅に上回ることができた。

（継続）授業での図書利用の推進

・学校司書によるレファレンスや学校図書館資料の適切な選書により、教育課程と連携した授業支援および図書資料を活用した授業を実施した。

（拡大）中学校図書館の利用の促進

・学校司書により授業支援等を充実し、中学校図書館の利用促進と中学生の読書活動の支援を行った。

（継続）読書ポイント事業の充実

・市内書店を読書ポイントの拠点として追加し、こどもたちが本と出会う機会を広げた。

（拡大）小中高生向け事業の実施

・小中高生向きの読書へ繋がるイベント等の実施や、図書館への来館のきっかけづくりについて、中高生と意見交換を行った。



【成果】

- ✓学校司書による適切なレファレンス、図書館オリエンテーションの実施等により、児童生徒が図書館の使い方を理解し、本に触れる機会が増加した。
- ✓学校司書による図書館だよりやおすすめ本の校内放送、季節や学校行事に合わせたコーナー設置、またくさつビブリオバトルを通じて、児童生徒の本への関心が高まり、読書文化の醸成が図れた。

令和7年度の課題

✓中学校における不読の改善

・小中学校において、令和6年度に比べ令和7年度は不読率は減少したが、中学校において、県平均にはおよんでいない。

令和8年度実施計画

- ・学校司書の配置を拡充する。(小学校:年間48日、中学校:年間令和7年度:51日→令和8年度:80日)
- ・「図書館オリエンテーション」のみならず図書を活用した授業の推進や読書イベントなど読書支援を充実する。
- ・図書館の読書ポイント事業や小中高生向け事業の参加率向上を図る。

<<目的・趣旨>>

今まで図書館を利用したことがない人も気軽に読書活動を行うことができるよう、移動図書館の巡回とともに地域の身近な場所で読書活動を行うことができる環境を整える。

指標名	R 6実績値	R 7目標値	R 7実績値	R 11目標値	～評価と考察～
図書館の団体貸出の拠点数	58箇所	136箇所	125箇所 (▲11箇所)	165箇所	

〔新規〕図書館のサテライト機能の推進

・地域の身近な場所で本を借りるなど、読書活動を行うことができる環境づくりを進めた。

（設置箇所：3箇所（志津南、老上西、常盤の各まちづくりセンター））

実績値の内訳	R 6	R 7
地域まちづくりセンター	1	3
隣保館	1	3
その他市内施設	4	11
就学前施設	21	70
市立小中学校	10	12
やまびこ教室	2	2

実績値の内訳	R 6	R 7
養護学校	1	0
高校	2	3
私立学校	0	0
学童保育、放課後デイ	13	17
障害者施設	1	1
高齢者施設	1	2
合計	58	125



〔成果〕

✓図書館サテライト機能の導入により、身近な場所で気軽に読書を楽しむことができる環境を整えることができ、継続的な読書活動の促進につながった。

✓移動図書館の巡回拡充や地域イベント出展により、図書館サービスの認知が向上し、新たな利用者の獲得につながった。

R7目標値は上回ることができなかったものの、3つのまちづくりセンターをはじめ、こども園、保育所、小中学校や地域の各種団体による取組みが活発化したことで、R6実績値に対しては2倍以上の団体貸出の拠点を増やし、市域における読書活動の促進につながった。

令和7年度の課題	令和8年度実施計画
✓市内団体への団体貸出制度の周知 ・市内に所在する施設や学校、地域で開かれているサロン等に周知を行い、各活動の充実のために団体貸出制度を活用した読書活動を促すことが必要である。 ✓図書館のサテライト機能の周知強化 ・図書館のサテライト機能は新たな取り組みであり、利用方法や設置場所についての認知が十分に浸透していないことから、より多くの方に利用してもらうための周知強化が必要である。	・団体貸出制度がよりよく活用されるよう、市内団体への個別周知を実施する。 ・新たに7施設にサテライト機能を導入する。（地域まちセン5館、隣保館2館） ・個別の予約やリクエスト等については月1回巡回する移動図書館で対応するなど司書によるきめ細やかな連携を図る。 ・新たに導入するセンターでチラシの回覧および全戸配布を行うとともに、園所・小中学生保護者への配信・周知を行い、認知度の向上を図る。 ・こどものよりよい生活習慣形成に寄与する家庭教育サポート事業において、関連テーマの図書紹介とあわせてサテライト機能を周知するほか、ボランティアの方によるサテライト機能で設置している図書を活用した読み聞かせイベント等を行い、利用促進につなげる。
✓移動図書館の充実（市内施設への巡回等） ・移動図書館を利用してもらうために周知を強化する必要がある。	・移動図書館の巡回ルートを追加する。 （笠縫東まちづくりセンター、常盤東総合センター、山田まちづくりセンター） ・イベントへの出展は2回を予定している。 ・SNS等で事前に周知を行い、イベント時の利用増を図る。

≪目的・趣旨≫

市民の「知る権利」を保障する基礎的施設として、資料・情報提供を基礎としたサービスを柱に、市民一人一人の「知りたい・学びたい」気持ちに対応するため、地域の情報拠点としての読書環境を整える。

また、さまざまな理由から図書館に行くことが困難な人も含め、市民が読書機会を持てる体制を整える。

指標名	R 6実績値	R 7目標値	R 7実績値	R 11目標値	～評価と考察～
図書館の実利用者数	22,931人	24,300人	22,709人 (▲1,591人)	25,500人	本と出合うイベントで図書館に来館するきっかけをつくることができた。実利用者数は貸出実績で測るため、イベントでの来館が本の貸出につながるように仕掛けていく必要がある。

(継続) 本と出合うイベントの開催

- ・図書館DAYやおおぞら図書館を実施し、来館のきっかけづくりするとともに図書館に親しみを持てる機会を創出した。(5回実施)



【成果】

- ✓ 郷土や地場産業に関する資料を含む幅広い分野の資料を収集することができた。
- ✓ 本と出合うイベントにおいて、さまざまな分野の講演会やイベントを行うことで、未利用者や多世代にわたる利用者の来館のきっかけとなった。
- ✓ 図書館アプリの活用(令和7年度新規ダウンロード数1,475件、累計3,387件)を通じて利便性向上を図った。

令和7年度の課題	令和8年度実施計画
✓ 来館機会の創出と読書活動への接続 ・本と出合うイベントでの来館機会の創出が本の貸出につながっていないことから、特に貸出利用が減少した20～30代を対象とした読書活動への接続が必要である。	・全世代を対象とした図書館DAYや講演会、体験型イベント等を実施するが、特に利用の減少している20～30代の読書活動を支援する企画の実施と効果的な広報を展開する。
✓ 利便性の向上と社会人・世代別ニーズへの対応 (図書館アプリ／リカレント教育・社会人向け読書推進) ・社会人を含む多様な世代の利便性や学習へのニーズを把握し、新規来館者を獲得することが必要である。	・図書館アプリ等WEBサービスの機能強化を図る。 ・アンケートや企画展示の利用状況を分析し、図書館利用への障壁や学び直し等の社会人ニーズを把握し、企画へ反映する。

≪目的・趣旨≫

市内各所で本に親しむことのできる機会の提供を図るため、地域まちづくりセンター等の地域の拠点施設や書店、地域団体と連携を行うことで、読書支援の充実につなげる。

また、市民活動や生涯学習の基盤となる知的資源を広く活用するため、県内図書館や大学図書館等と連携し、蔵書の相互貸借により本の提供に努める。

指標名	R 6実績値	R 7目標値	R 7実績値	R 11目標値
図書館と関係機関等との連携箇所数	15箇所	26箇所	25箇所 (▲1箇所)	55箇所

(拡大) 市内施設との連携事業の実施

✓市内施設において、セミナーや企画展の内容に合わせた団体貸出や共催企画等を展開し、施設と図書館双方の利用の拡大を図りました。

(新規) 書店との連携事業の実施

✓書店との連携において、イベントの共催など書店と図書館双方の利用拡大を図ることで、読書に親しむ市民の増加に寄与した。



～評価と考察～

市内施設と継続的な連携事業を実施することで、市民が本に触れる機会を創出することができた。市内の書店とは、意見交換を通じてともに読書活動を支える認識を共有し、書店でもポイントが付与される読書ポイント事業では小中学生が近隣の書店を訪れる姿が見られた。

【成果】

- ✓市内施設・地域拠点との連携事業(地域まちづくりセンター・史跡草津宿本陣・街道交流館・UDCみなくさ等)を通じて地域における読書機会を創出した。
- ✓書店との連携事業において、意見交換会(3回)や読書ポイント事業(令和7年12月1日から令和8年1月31日まで)を実施し、書店と読書人口増加の課題共有を行うとともに、小中学生の図書館と書店訪問のきっかけづくりを通じて利用の拡大を図った。

令和7年度の課題

✓市内施設との連携拡大
・他の市内施設との連携が十分でなく、さらに連携をすすめる必要がある。

✓書店との連携事業の強化

・書店と図書館が協働してアイデアを出し合い、読書に興味を持つきっかけづくりを仕掛けていく必要がある。

令和8年度実施計画

- ・史跡草津宿本陣・街道交流館・UDCみなくさ等との連携事業を継続実施する。
- ・琵琶湖博物館・水生植物公園みずの森との連携事業を検討する。
- ・草津市図書館書店連携連絡会(意見交換会)を3回実施する。
- ・読書ポイント事業を実施する。
- ・「司書からのおすすめ本」の展示により、図書館利用と書店への来店促進の相乗効果を図る。

<<目的・趣旨>>

地域に密着した読書活動を推進し、読書の大切さの啓発を図るため、読書ボランティアの連携や読書活動をしている個人・団体の交流の場の提供や育成・支援を行う。

指標名	R 6実績値	R 7目標値	R 7実績値	R 11目標値
養成した読書ボランティアの人数	0人	14人	10人 (▲4人)	30人

～評価と考察～

読み聞かせボランティア養成講座を受講した人数は26人であり、実際に活動につながった人数(10人)は目標値よりも少ないながら、意欲の高い受講生が集まり、満足度は非常に高かった。今後は地域で活躍することをより具体的にイメージできる講座を行っていく。



(新規) 読み聞かせボランティアの養成・育成および活動支援

- ・絵本の選び方や読み聞かせのスキルを学ぶ読書ボランティア養成講座の実施により、読書ボランティアの育成を行った。
- ・市内の読書ボランティアと連携・協力し、活動内容の充実や発展のために、機会のコーディネートを含む支援・協力を行った。
(10人)

【成果】

- ✓絵本の選び方や読み方のスキルを学ぶ読み聞かせボランティア養成講座の実施により、市民活動を担う人材を育成することができた。

令和7年度の課題	令和8年度実施計画
✓読み聞かせボランティアの支援 ・読み聞かせボランティア養成講座修了生への活動の啓発と活動の場を増やす必要がある。 ・養成講座について、より活動をイメージできるような講座を行う必要がある。	・市内の地域まちづくりセンター、会館等で読み聞かせを行う場を創出する。 ・養成講座について、地域まちづくりセンター等での読み聞かせボランティア活動を想定した実践講座を行う。 ・養成講座修了後も、実際の活動に繋がるような支援を行う。